

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No. -（事務局用）	タイトル 若者を鶴岡市に呼び込むためのビジネスプラン策定	自治体名 山形県鶴岡市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	暮らす旅 - 鶴岡市からの特別な贈り物、それから始まる鶴岡市への旅 -		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	鶴岡再発見！プロジェクト		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	8名		
代表者情報	泉川 由起（卒業生）		
メンバー（公開）	杉下 亜弥香 前田 ひとみ 今井 亜美 折原 悠理	木村 亜美 井上 由菜 斎藤 勝三	

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<解決したい課題>

【鶴岡市】

- ・鶴岡市を含む地方都市において進む、若者の人口減少を止める。
- ・新型コロナウイルス等で人の流れが途絶えても、交流と流通の繋がりを作る。

【学生】

- ・「地方暮らしに憧れがあるものの、具体的にどういふものか想像がつかない」と感じる人に対して、地方で暮らすイメージを持ってもらう。
- ・「コロナ疲れ」や「コロナうつ」のほか「日々の疲れ」など、精神的な疲れを解消する特別な癒しを求めている。

<アイデアの内容>

暮らす旅

～鶴岡市からの特別な贈り物、そこから始まる鶴岡市への旅～

新型コロナウイルス感染の影響を受け、人は自由に旅をすることが困難になり、「コロナ疲れ」や「コロナうつ」といった言葉が流行するようになった。コロナ禍で人々は日常的に癒しを求めていることが改めて明らかとなった。今こそ癒しを提供できる都市が求められているのではないかと考え、**私たちは“宅配”から始まる「自宅で暮らしながら旅をする」癒しと、その“宅配”から現地への旅が始まる「鶴岡市で暮らしながら旅をする」移住体験のプランを提案する。**

メインターゲットは、都市部に暮らし且つ地方暮らしに関心のある 18 歳から 20 代の学生とし、学生のライフスタイルに合わせた体験が可能。このターゲット層は、大学生活を満喫したい・大学生の間でしかできないような体験や活動がしたいと考えているが、コロナ禍で叶えることができていないと考える。また、そのようなニーズは新型コロナウイルスに関わらず、継続して求められていることである。本プランを通して、若者が鶴岡市を知り、興味を持ってもらう、そして実際に足を運ぶように導くことで、その想いを叶えるだけでなく、鶴岡市における若者の人口減少を止めることができると考えている。

【 I 自宅で暮らしながら旅をする - 宅配・フォトコンテスト - 】

学生は**宅配**を通して鶴岡市との接点を持つ。名産品の宅配サービスを行っている鶴岡地区物産協同組合と協働し、単に宅配のみを行うのではなく以下のようなプランを組み込む。

鶴岡地区物産協同組合

- ・鶴岡市の名産品詰め合わせセット※を宅配。
- ・宅配の箱の中に QR コードが印刷されたハガキを同封する。
QR コード：①生産者の方々からのメッセージや鶴岡市の魅力が分かる動画を視聴できる。
②動画視聴後、次回利用できる割引券が貰える。
- ハガキ：学生が鶴岡市へメッセージを届けることができる。名産品を食べた感想、メールアドレスを書いて送ると、現地で利用できる割引券が貰える。

鶴岡再発見！プロジェクト

- ・Instagram で、**フォトコンテスト**を開催。
→期間：夏・冬 それぞれ 1ヶ月間

学生

- ・食体験後、ハガキにメッセージを書いて送る。
- ・**フォトコンテスト**に参加…宅配された名産品を撮影し、ハッシュタグをつけて Instagram に投稿。入賞者には各種特典（宿泊券など）を贈呈。

- 具体的な流れ -

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

- ①各大学のポータルサイトに掲載された URL や鶴岡市の公式ホームページから鶴岡地区物産協同組合のオンラインショップへアクセス
- ②鶴岡再発見！プロジェクトとコラボした、学生向けのオリジナルセットを購入※
- ③セットと QR コードが印刷されたハガキが届く
- ④QR コードを読み取り、動画を視聴（動画を見ながら食体験！）→動画視聴後、次回利用できる割引券が貰える
- ⑤同封のハガキに鶴岡市への想いを綴る・投函→鶴岡市で利用できる割引券が貰える
- ⑥届いた名産品を撮影してフォトコンテストに参加→入賞者は各種特典（宿泊券など）が貰える

※詰め合わせセットの例

- ・**高校生セレクション**
→鶴岡在住の高校生が選びます！
- ・**ゆらまちっくセレクション**
→ゆらまちっく戦略会議の方々が発売している海鮮系の商品を中心とした詰め合わせ！
- ・**羽黒山「斎館」セレクション**
→精進料理を中心とした健康的な詰め合わせ！
- ・**鶴岡再発見！プロジェクトセレクション**
→私たちが実際に食体験を通じておすすめしたいと思った商品を揃えました！

【 II 地方で暮らしながら旅をする - 移住体験 - 】

学生が①鶴岡市で**移住体験**をしながら、②**鶴岡市ならではの体験**ができるプランを提供する。

宿泊施設は江戸川区・鶴岡市 友好の館「山王町江鶴亭」（収容人数は最大 10 名）とする。なお、宿泊先は徐々に拡大予定である。本プランは、学生が自由に 1 週間決めて体験できるものとし、長期休暇や、学校の授業がオンラインの場合にも対応する。授業期間の平日は宿泊先での学生同士がオンライン授業を受け食事を取るなどして、学生間の繋がりを作り、土日は鶴岡ならではの体験を行い、鶴岡市の方々との繋がりを作る。平日と土日に分けているのは、学業が本業である学生にとって体験がメインにならないように工夫するためである。（なお、オンライン授業と併用して体験を行う場合は、詳細な時間等が異なる場合がある。）

- 具体的な流れ -

- ①各大学のポータルサイトに掲載された URL から鶴岡市の公式ホームページへアクセス
- ②本プラン「暮らす旅」の詳細ページから日付と体験コースを選択
- ③いざ現地へ！鶴岡市で素敵な旅を！

- 費用 -

I 名産品の詰め合わせセット（送料込み）
→鶴岡市の寄附金の活用により、学生に適した価格設定を目指す。

II 移住体験パック（宿泊費・体験費・交通費込み）

→鶴岡市の寄附金の活用、その他交渉により、学生に適した価格設定を目指す。

・食費

※オンライン授業と並行する場合、ノートパソコンは持参（Wi-Fi 完備）

体験の具体例

・**日本遺産を巡って、健康的に痩せよう！**コース

→山伏体験、**出羽三山**に登る。心身ともに癒しを感じ、生活習慣を見直しながら健康的に痩せることができる。

・**郷土料理に触れながら料理上手になろう！**コース

→**コネスコ食文化創造都市**である鶴岡市で、料理の腕を上達させることができる。

・**日本酒を飲み比べよう！**コース

→鶴岡市に代々伝わる**大山酒**の良さに触れることができる。

・**ギネスに登録された水族館でクラゲを飼育してみよう！**コース

→クラゲの展示数世界一を誇る**加茂水族館**でクラゲの飼育体験ができる。

・**鶴岡市のインターン**コース

→最先端テクノロジーの宝庫である**サイエンスパーク**を始め、「地方で働く」を体験することができる。

・**単発アルバイト**コース

→鶴岡市ならではの仕事ができる。

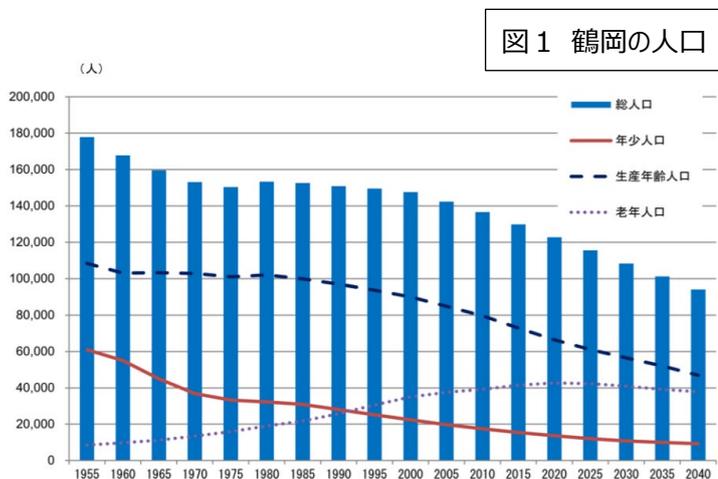
(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

1. 鶴岡市に住む若者の人口が減少

鶴岡市の人口減少については図 1 からわかる通り、1980 年以降総人口が減少しているに加え、若者の生産年齢人口や年少人口の減少も著しい状況である。少子高齢を伴う人口減少が今後も続く見込みである。

そこで人口減少を抑え、生産年齢人口の増加のために若者を鶴岡市へ呼び込むことが必要とされている。



出典：鶴岡市人口ビジョン(案) H27 10 月より

2. 学生の地方への意識調査

私たちは学生に向けた地方移住に関するアンケート調査を行った。性別、学部問わず 78 人の調査結果が得られた(図 2)。(2020/10/21～23 実施)

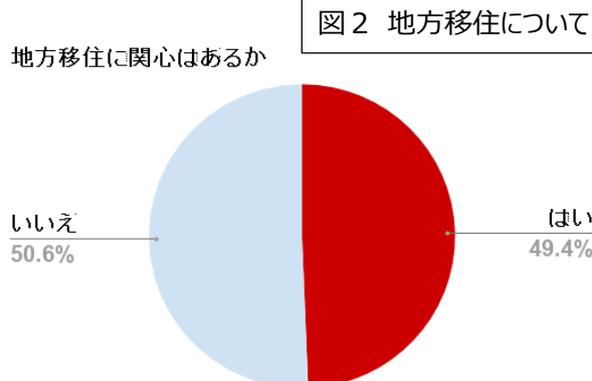
地方移住に関心のある学生は約 50%いることが分かり、その多くは東京都や神奈川県などの首都圏に在住していた。

地方への移住に関心を示す一方で、地方移住へのハードルを感じる学生もいる。「地方に移住はしたいが、結婚や就職のことを考えると戸惑う」、「地方には興味があるが、ふるさと納税や Go to トラベルのような制度はあってもシステムが分かりづらく、学生に向けたサービスが欲しい」という意見があった。

さらに、山形県鶴岡市の認知度を調査してみると約 55%の学生が「知らない」と答えた。鶴岡市は日本で唯一ユネスコ食文化創造都市に制定され、鶴岡特有の行事食や伝統野菜も多くあるが、自然や食の魅力を知らない人もいるため、それを伝える施策が必要であることが分かった。

また、「毎日の電車通学が疲れる、通学時間が長くて面倒である」「オンライン授業を自宅で受講しているがやる気が出ず、静かな環境で勉強をしたい」「課題が多くて大変」など、実生活に疲れを感じている学生が多く見られた。

アンケート調査により、地方移住に比較的関心のある学生に向けたサービスの展開が重要であることが分かった。また、疲れを感じている学生が多いことから学生生活でのストレスを解消するための癒しを提供する施策が必要であることが分かった。



3. 全国的な新型コロナウイルス感染拡大

新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大している(図 3)。地方は比較的感染者が少ないが、都市部では連日感染者の増加が進んでいる。さらに、飲食店の営業時間の短縮や不要不急な外出を避けている。

一方、地域により感染状況が異なるため、住んでいる地域以外への旅行を懸念する意見もある。感染者が増加している地域に住む旅行者が来ることによって、受け入れる側は不安を抱くこともある。また、ホテルや旅館などは感染を防ぐための徹底したサービスが求められるため負担が多くなる。こうした影響により、鶴岡市への観光客数は激減している。例年鶴岡市への観光客数が一番多い8月における今年の数前は前年比58%であった（図4）。交流人口の減少により、鶴岡市の経済の低迷が深刻な問題となっている。

以上を踏まえて、新型コロナウイルスの感染拡大状況下では実際に鶴岡市へ行くことは難しいと考えた。一方、新型コロナウイルスの影響で人の流れが止まったが、交流や流通を広げることは可能である。そこで、実際に鶴岡市を訪れることが難しくとも、宅配を通じて鶴岡市と関わりを持つことができると考えた。

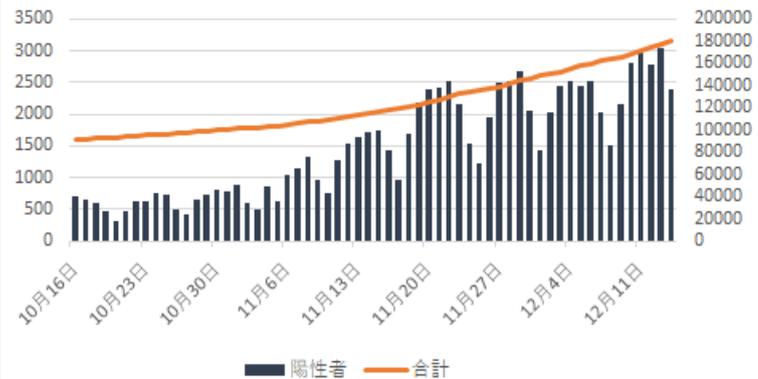
4. 鶴岡市の魅力

鶴岡市は日本海に面しており、出羽三山や庄内平野など山と海に囲まれた自然豊かな土地である。また、鶴岡市はユネスコ食文化創造都市に指定されており、海の幸・山の幸に恵まれた豊かな食文化を有し、独自の食文化を今に伝えている。出羽三山の山伏や精進料理、クラゲの飼育数世界一を誇る加茂水族館など鶴岡ならではのモノが多い。

また私たちは現地に行くことができなかったが、現地の方々とのオンライン研修を通じて鶴岡についての学びを深め、食体験を行うことで鶴岡の味を感じることができた。現地に行く前に鶴岡市への学びを深め、味を知ることで、実際に鶴岡市を訪れた際によりいっそう満喫できると考える。つまり、オンラインを取り入れることにより、鶴岡市への興味が沸き、観光したいと考える人が増え、結果として鶴岡市の交流人口増加に繋がる。

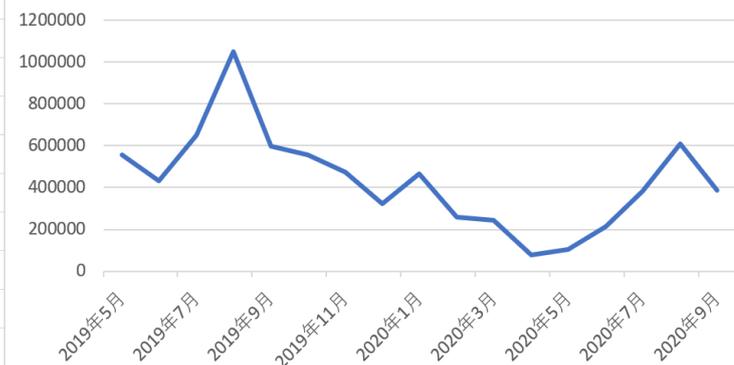
本プランを通して、鶴岡市を知り魅力を感じるきっかけを作ることができると考える。さらには、鶴岡市との“接点”が現在薄れてしまっている情緒的な“繋がり”の一助となり、また学生の日常的な疲れの軽減に作用すると考える。

図3 感染者の推移



出典：厚生労働省報道発表資料より(最終閲覧:2020/12/13)

図4 鶴岡市への観光客数



出典：鶴岡市経済動向 2020年11月

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアを実現する主体>

- ・全体設計、環境整備、各種広報
→昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト / 鶴岡市商工観光部商工課 / 鶴岡市東京事務所
- ・サービス運用主体
→昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト / 鶴岡市商工観光部商工課 / 鶴岡市東京事務所
- ・サービス利用主体→18 歳～20 代の学生

<アイデアの実現に必要な資源>

「 I 自宅で暮らしながら旅をする」

◆ヒト

- ・宅配関連→鶴岡地区物産協同組合
- ・QR コードに埋め込む動画の作成→昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト / 鶴岡市民…オンライン研修を通じて繋がりを持たれた方々、地域おこし協力隊の方々、鶴岡市商工観光部商工課
- ・割引券の使用を許可→鶴岡市の飲食店やお土産店
- ・フォトコンテストの開催→昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト
- ・WEB サイトの作成→鶴岡市役所 / 昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト
- ・広報（各大学ポータルサイトへの掲載）→各大学職員

◆モノ

鶴岡市公式ホームページ / 各大学ポータルサイト

◆カネ

人件費（宅配関連） / インク代 / ハガキ代 / ハガキの郵便料金 / 各種特典の用意 / 掲載費（鶴岡地区物産協同組合）

※鶴岡市の寄附金の活用や交渉により削減できる可能性あり。

「 II 地方で暮らしながら旅をする」

◆ヒト

- ・宿泊施設の提供→江戸川区・鶴岡市 友好の館「山王町江鶴亭」管理者
- ・体験→出羽三山、羽黒山「斎館」、ゆらまちっく(由良地区協議会)、加藤嘉八郎酒造株式会社、加茂水族館、サイエンスパーク、鶴岡市役所（個人名は伏せています）
- ・WEB サイトの作成→鶴岡市役所 / 昭和女子大学 鶴岡再発見！プロジェクト
- ・広報（各大学ポータルサイトへの掲載）→各大学職員

◆モノ

江戸川区・鶴岡市 友好の館「山王町江鶴亭」 / 鶴岡市公式ホームページ / 各大学ポータルサイト

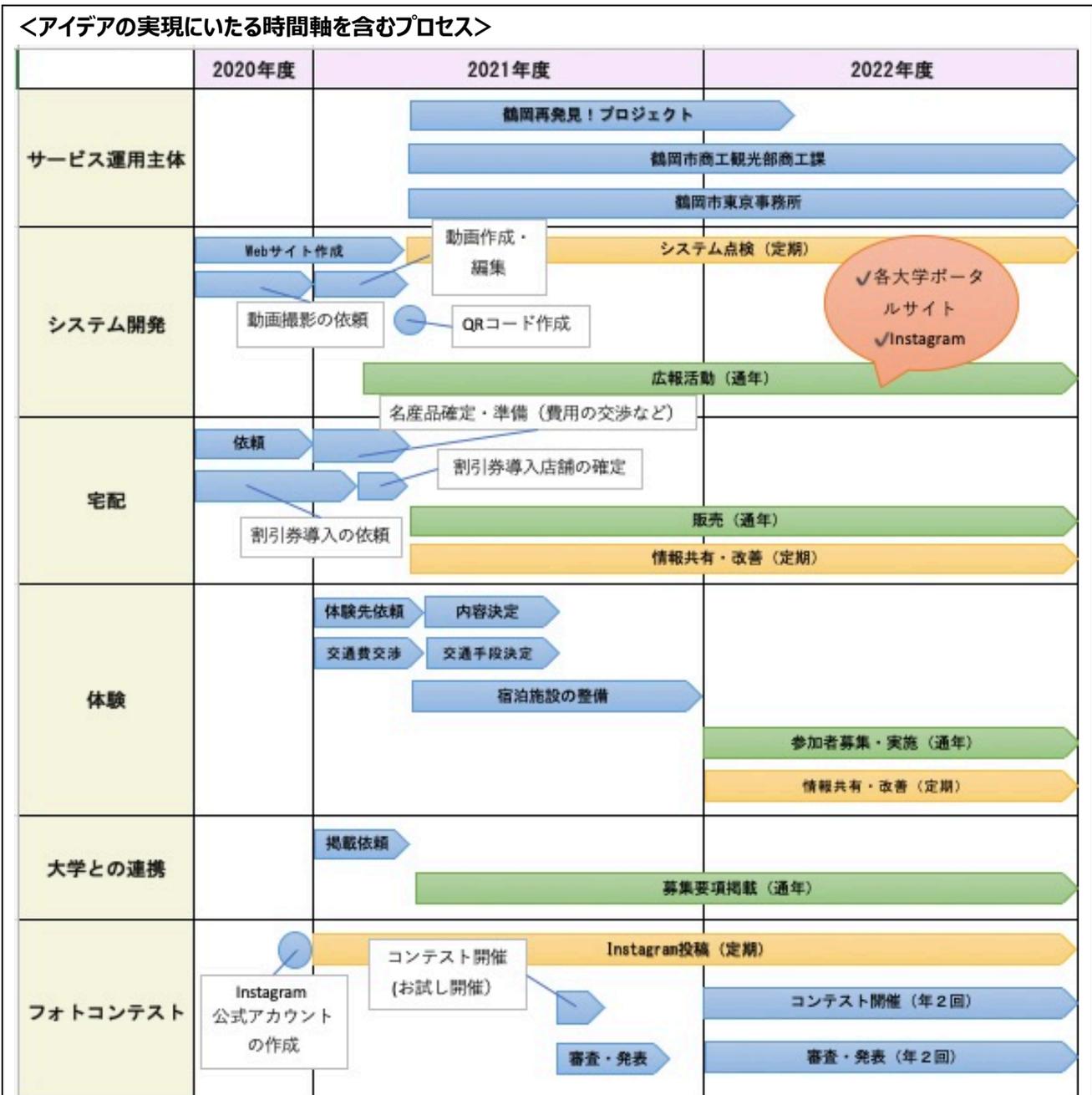
◆カネ

宿泊費 / 設備費 / 体験費 / 食費 / 交通費（鶴岡市での移動） / 交通費（都市部から鶴岡市に移動）

※鶴岡市の寄附金の活用や交渉により、削減できる可能性あり。交通費は「庄内交通」に交渉予定（鶴岡市での移動はレンタカー、電動自転車・原付バイクなども活用する）。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）



＜今後の課題＞

- ・学生に寄り添った低価格なプランの追求
→ふるさと納税の活用やクラウドファンディングの運用を検討。
- ・体験活動の拡大
→協力してくださる団体を幅広く募集し交渉を行う。
- ・本プランを他大学ポータルサイトへ掲載してもらう際、承諾していただける大学に限られると推測される点
→鶴岡市と繋がりのある大学、地方創生に注力している他団体への交渉を行う。
- ・宅配利用者の増加に伴う人的負担の削減
→ハガキではなく、LINE公式アカウントを活用したオンライン間のやり取りに変更。